

平成25年度会務総括報告

平成25年度事業ならびに会務運営は、平成24年度第5回理事会において承認（平成25年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行した。福島原発事故による放射能汚染被害に関連して市民に正しく放射線・放射能を理解してもらうために引き続き市民公開講座を福島市、福岡市ならびに前橋市にて開催した。

学会運営における、今後の10年を見据えた中長期的な将来ビジョンの答申が将来構想特別委員会から2月に出された。また、今年度設置した国際化特別委員会から、国際化を進めて行くための方針ならびに目標設定等の答申が出された。総会学術大会ではE F R S（European Federation of Radiographers Societies）会長を招聘し国際学術連携への準備を開始した。

平成25年度末の正会員数は16,759名であり、平成24年度末の正会員数と比べて少し増加し、引き続き上昇傾向を維持した。一方、学生会員は252名となり平成24年度末と比べてわずかであるが減少した。また、総会学術大会では4,600人を、秋季学術大会では1,700人をを超える多くの会員が参加し、大盛会であった。

会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会事業が順調に執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、平成25年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術大会の開催

1) 総会学術大会の開催；公1

第69回総会学術大会は平成25年4月11日（木）～14日（日）の4日間、杜下淳次大会長のもと開催した。一般研究発表演題は648題、参加登録者数は4,653名であった。

第70回総会学術大会は平成26年4月10日（木）～13日（日）の4日間、江口陽一大会長のもとパシフィコ横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

2) 秋季学術大会の開催；公1

第41回秋季学術大会を平成25年10月17日（木）～19日（土）の3日間、橋田昌弘大会長のもとアクロス福岡にてJRC共催、日本医療情報学会の後援で開催した。研究発表は455題、参加登録者は1,732名であった。

第42回秋季学術大会を平成26年10月9日（木）～11日（土）の3日間、小笠原克彦大会長のもと札幌コンベンションセンターで開催すべく準備を進めた。

3) 分科会の開催；公1、公3

7つの分科会が春秋の学術大会にジョイントして分科会を開催し、教育講演や種々の企画を行った。また、教育委員会、専門分科会、地方部会共催で、画像分科会はCADセミナーと、2回のROCセミナー、2回のDRセミナーを、核医学分科会は核医学技術研修会と2回の核医学画像セミナーを、放射線治療分科会は2回の放射線治療分科会セミナーを、放射線撮影分科会は2回の乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会、公開シンポジウム、MRセミナー（上級編）、CTセミナー、2回の救急撮影セミナー、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナーを、計測分科会は医療被ばく測定セミナーを、放射線防護分科会は医療防護セミナー、市民公開講座を、医療情報分科会は4回のPACS Specialistセミナーを行った。

4) 市民公開シンポジウム・市民公開講座の開催；公1

平成25年度科学研究費補助金にて一般市民を対象とした市民公開講座を「今を問うー私たちの暮らしと医療被ばくー」のテーマで福岡市において開催した。また、平成25年度市民公開シンポジウムを「狭心症にかからないために」のテーマで京都市において開催した。昨年に引き続き、東日本大震災によって発生した福島原発事故による放射能汚染被害に関連して、放射能汚染に関する正しい知識の広報を目的に一般市民を対象とした市民公開講座を福島市、福岡市（既述）、前橋市において開催した。

2. 学会誌・刊行物の発行；公2

1) 学会誌の発行

平成24年1月～12月で掲載論文数が126編（昨年は同期間で155編）となった。学会誌第68巻1号～第68巻12号の12冊（論文特集号1冊含む）を毎月20日に発行した。

2) 英語論文誌の発行

一般社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で、第6巻2号を平成25年7月20日付で、第7巻1号を平成26年1月20日付で発行した。掲載論文数は54編となった。また、第41回秋季学術大会にて英語論文誌フォーラムを開催した。

3) その他の出版物

放射線技術学叢書(32)「動画で見る一般撮影マニュアル-上肢・下肢編-」CD版、放射線技術学シリーズ「放射線計測学(改訂2版)」の発刊を行った。また、放射線技術学叢書(14-4)「乳房撮影精度管理マニュアル」を増刷した。

3. 委員会活動と一般事業

1) 企画委員会；共通

学会の組織改革に取り組み、地方部会ならびに専門分科会の名称変更について検討し理事会に諮った。また、学会の国際化の具体的な目標と実施案の策定を国際化特別委員会に働きかけを行うとともに国際化を進めていくための財政計画についても検討した。

2) 学術委員会；公1、公3

公開シンポジウム・公開講座の開催(3回)ならびに学術調査研究班10班を編成して積極的な学術活動を行った。医療安全対策小委員会は、総会学術大会ならびに秋季学術大会時に医療安全フォーラムの開催や警鐘事例の学会ホームページへの掲載等で広報を行った。プログラム委員会は、第70回総会学術大会では682演題の応募に対して669演題を採択した。第41回秋季学術大会では473演題の応募に対して465演題を採択した。また、学術大会時の倫理審査を一元化するために倫理審査担当を新設するなどの学術大会の質の向上を進めた。

3) 教育委員会；公3

各種セミナーの開催をおこなった。また、第69回総会学術大会では12講座の「専門講座」、11講座の「入門講座」、第41回秋季学術大会では9講座の「専門講座」、11講座の「入門講座」を開催した。また、各講座のコンテンツをe-learningとしてホームページに掲載した。

4) 学術交流委員会；公5

海外交流関係では短期留学生の派遣(1名)、国際研究集会への派遣(8名)、海外短期研修への派遣(20名)を行った。第69回総会学術大会に中華医学会影像技術学会から役員2名、推薦会員3名ならびに一般会員2名を招聘した。また、第21次中華医学会影像技術学会総会学術大会に3名を、大韓放射線科学会春季学術大会2013に3名派遣して学術交流をおこなった。さらに、第69回総会学術大会にEFRS(European Federation of Radiographers Societies) Paulo会長を招聘し講演と今後の交流について打ち合わせを行った。国内交流関係では、関連学協会への委員の派遣、関連学会への協力を行った。関係法令等検討小委員会は、放射線管理フォーラムの開催、平成24年4月1日に施行された改正放射線障害防止法の運用上の課題把握のために実際に対応を図った医療機関の状況を調査した。標準化小委員会は、JIS原案作成活動、基準委員会活動としてJIS原案審議、認証基準審議および標準化フォーラムを開催した。医療情報関連小委員会は、医療情報フォーラムの開催、日本IHE協会等と連携を図り医療情報に関する標準化にかかわる規格、ガイドライン等について協議、策定を行った。

5) 表彰委員会；公4

規定に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦を行った。また、平成26年度科学技術分野の文部科学大臣賞表彰受賞候補者の推薦ならびに第10回日本学術振興会賞の受賞者の推薦を行った。

6) 広報委員会；公2

ホームページ(和文)のコンテンツの更新、新規バナーの設定、賛助会員リスト作成ならびに重要なお知らせを効率的に掲載した。ホームページ(英文)については、コンテンツの充実ならびに国外に向けて発信すべき重要なお知らせを掲載した。さらには、スマートフォン用のホームページ画面を作成した。また、市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

7) 総務委員会；共通

会務運営の円滑な推進を図るために、事業全般の統括と庶務業務を行った。WEB会議システムを本格的に導入し、会議開催までの移動コストの削減を実現した。会務の実情に合わせ、諸規定の改訂を行った。また、平成25年度定時総会を開催した。

8) 選挙管理委員会；法人

平成27・28年度の代議員の選出選挙ならびに平成27・28年度役員定数選出選挙の日程について理事会に提案した。

9) 倫理審査委員会；共通

委員会を開催すべき事項が発生しなかった。

10) 将来構想作成特別委員会；共通

将来構想答申の基本となる重点項目を洗出し、各重点項目について詳細な検討を行った結果、「多様化する社会の要請に応じて」と題する将来構想を答申した。

11) 国際化特別委員会；共通

本学会における国際化の意義、中期的な到達目標、会員への支援策と学術大会のあり方ならびに世界における本会の存在意義とあるべき姿について検討し、答申した。

4. その他；公5

(1) JRC理事会に役員を6名派遣し、学術大会開催企画に積極的に参画した。

(2) 公益社団法人 日本診療放射線技師会と懇談会を2回開催し、公開合同学術セミナーを1回開催した。